

翻案シエイクスピア四篇

『マクベス』『オセロー』

『アントニーとクレオパトラ』『リア荒野』

作／村野玲子

登場人物

『マクベス』 pp. 3-12 ————— [2015年執筆]

ダンカン／兵士1

バンコー／兵士2

マルカム

マクダフ

魔女

『オセロー』 pp. 13-29 ————— [2017年執筆]

イアーゴ

エミリア

デズデモーナ

オセロー

『アントニーとクレオパトラ』 pp. 30-46 ————— [2014年執筆]

クレオパトラ

アントニー

シャーミア

マーディアン

使者

案内人／道化

『リア荒野』 pp. 47-55 ————— [2023年執筆]

リア

道化

## 『マクベス』

1

マクベスの城。

もてなしの宴の後、部屋に戻ってきたダンカン王。

ダンカン

いやもう、楽しかった、めっちゃ楽しかった、ありがとう、ほん

とにありがとう、おやすみい。え、何で笑ってんの。王らしくない？ だ  
つてご機嫌なんだもん。あ、じゃあじゃあ王らしく。おやすみでござる。

どう、どう？ 満足？ よかったあ。はあい、ありがとう、ほいじゃま  
た、あ、ごめんごめん、悪いんだけどさ、明日早めに起こして。なるは  
やで発ちたいから。いやいやだつてさ、遠いじゃん、うちの城まで。も  
う戦続きで帰ってなくて、いい加減かみさんおこっちゃってるからさ。  
えつとね、二番鶏くらいかな。悪いね、おつかれのところ。よろしくう。

ああ(伸び)ああと。はあ、めっちゃ楽しかった。やっぱいいやつだな  
あ、マクベスは。(寝仕度をしながら)だつてさ、こんな急におまえんち  
泊めろつて言つても、ちゃんと泊めてくれるんだよ？ おまけに宴つき。

しかも俺だけじゃないよ、うちの息子と他の貴族と、あとしたっぱの兵  
士も含めると、もうこれ何百人つて話よ？ いくら王に言われたからつ  
てさあ。いやあ、器だよねえ。真似できない。俺、王だけど、さすがに  
今日の今日言われたら、わりいけど勘弁してつて言いたくなるし、言う  
もんねえ、実際。いやもう最高。万歳、マクベス。なんちつて。いいな  
あ。強いし。マクベスといいバンコーといい、いい部下もつて、俺ほん  
と、ラツキーキングだなあ。

あ、でもさ。あんま強すぎるのも、なんなんだよね。こう、なんていう  
か。王座を奪われる危険性があるかも的な。だから今日、昼に、マクベ  
スに、没収したてのコーダーの土地をあげといて、その上でうちの子マ  
ルカムを王位後継者につて宣言して、バランスとつたわけだけど。どう  
だろう。まずかつたかなあ。ううん、ちよつと強引だったよね。怒つち  
やつたかな、マクベス。んー。ま、いっか。もう言っちゃったことだし。  
王の言葉は神の言葉。やっぱ嘘、つてわけにはいかないもんね。まあ折  
り合いつけてうまくやってよつてとこだな。がんばれ、息子。がんばれ、  
マクベス。

いやでもさあ、このうちの息子ってのがさあ。どうもいまいち、欲がないっちゆうか、ボンクラっちゆうか。こう、俺マジでやるから王、っていう、気概っていうの？ 勢いっていうの？ そうゆうのがないんだよねえ。誰に似たんだか。まあ俺か。んー、どうすっかなあ。一応、長男だからマルカムってことにしたんだけど、参謀あたりにマクベス入ってもらうようにしとくかなあ。あ、バンコーでもいいか。武人としては、マクベスにはちよつと劣るけど、頭キレるし、状況判断的確だし。あ、いや、ちよつと待てよ。二人に入ってもらえばいいんじゃないかね？ 参謀二人体制、常にセカンドオピニオンが取れる状況。え、よくね？ これマジよくね？ すっげ、よく回るんじゃないかね？ 無敵じゃん。うわあ、マジいい、これマジ名案、俺ちよー良い王、ナイスキング。スコットランド、マジこれガチで安泰じゃん。イエーイ、グッジョブ、ナイスガイ。って、ぜんぶ俺死んだあとの話だけど。いやでもいいなあ、見たいなあこの体制。これ見るために、ちよい早めに死んじゃおっかなあ。誰かにブスウ、なんつって。なあんてうそうそ。ダンカンはまだしばらく死にまっしえーん。まだやりたいこといっぱいあるもーん。それに死んじゃったら見れないし。あーあ、バカバカ俺。

ああでも、これほんとい話だな。明日、朝飯んときみんなに言お。諸君二人には、参謀として国政をゆだねたい。うふふ、喜ぶかなあ、マクベスとバンコー。マルカム的にも安心だよな。一人より二人、二人より三人だ。ああ、いい、俺ほんとに気分いい。

ダンカン、横になる。  
そこへ侵入者。ダンカン刺される。

ダンカン

おのれ、マクベス！

ダンカン、息絶える。

2

馬に乗り、マクベスの城へ向かうバンコー。

バンコー

あいつ、やったな。いや、やったよ。確実にやった。ダンカン

を殺したのは、やっだ。よろしくない。よろしくないね。ゆすっちゃやるか？ いやだめだ。あの底抜けの善人ダンカンを殺したような奴だぞ、この俺、これまで戦でさんざんタッグを組んできた親友であるこのバンコーだつて殺しかねん。こうなったら、やられる前にやるしかない…ハッ、シート。俺、シート。危ない危ない。誰がどこで聞いているかわからん、おうちにチャック、心もチャックだ。全身チャックで、ジップロックに入れておこう。下手すると、謀反人扱いで処刑されかねん。怖いんだよな、あいつ。シヤレにならん。あいつ、やるとき、結構むちゃくちゃやるからな。俺、戦場でさんざん見たもん、あいつが完全にイっちゃってるの。いやあ、そりゃ俺も頑張るけどさ、でももうドン引き。内心、マジでドン引きよ。こいつ完全に殺戮マシンになつてるとあるときあるもんね。だから俺、そういうときは、敵をちよつと怪我させるだけでいいの。やあってやって、何となくマクベスの方にぼいってやれば、あとはあいつががんとどめさしてくれるから。ああ、思い出すだけでおっかない。そんな奴が暗殺で王つて。マジ怖い、マジありえん。どうしちゃったんだろうなあ、あいつ。前は普通の、むしろ生真面目すぎるくらいはやっだったんだけどなあ。何かきつと、思いつめちゃったんだろうなあ。ちよつと戦続きで参っちゃったのかなあ。そう、戦。あいつ政治家っていうより、武人なんだよな。戦場では大活躍だけど、政治家としてはかなり危ないな。交渉とかできなさそうだし。根回し？めんどくせえ、殺せ、つてなりそうだな。ああ、こりやまずい。まずい奴が王になったぞ。でもこれまでの歴史で、暗殺での政権交代がなかったわけじゃないしな。よくあることつちやよくあることだ。ブルータスよ、おまえもか、だもんな。そう悲観的になることも、ないといえばいいのか。それにあいつ、かわいいとこあるし。慣れない酒、飲みすぎてでろんでろんになっちゃったり。うーん。よし、決めた。俺、参謀になる。あいつをちゃんとサポートする。戦友だし、同じ釜の飯食った仲だし。仲良くやろう。無理しない、無理させない。無理していいことないからな。いい仲で、いい国つくろうスコットランドだ。よし、何かやる気出てきた。がんばるぞ。にしても、だいぶ暗くなってきたな。日が沈みかけてる。これじゃ晚餐会に遅れちゃうな、せっかくあいつが呼んでくれ……

道端から刺客が現れ、刺される。

うっ。嘘だろおい。何じゃこりや。  
おのれ、マクベス！

バンコー、息絶える。

3

荒野のマクダフ、マルカム、兵士2人、魔女。  
マクベスの城へ向かう途中。

マルカム　ねえ、マクダフ、まだあ？  
マクダフ　もうちよつとですよ。  
マルカム　さつきもそう言ったじゃん。遠いよ、あいつの城。  
マクダフ　頑張ってください。仲間だっているんですから。頑張りましょ  
う。

兵士1・2・魔女　おー。  
マルカム　信用できない。

マクダフ　マルカム様、またですか？  
マルカム　こいつらの中にスパイがいる。  
マクダフ　いませんって。

兵士1・2・魔女　いません、いません。  
マルカム　証明しろ。僕をあいっに売り渡す気は、チリ一つほど、ミトコ  
ンドリア一つほどありませんって。

マクダフ　何度も宣誓したじゃないですか。  
マルカム　届かない。誠意が足りない。僕のこの心の奥底まで染みわたる  
ように、ソウルとハートで表現しろ。イメージは、高野豆腐に含まれ  
た煮物の出汁。マクダフ、おまえもだ。

マクダフ　ええ、もう、わかりましたよ。  
マルカム　さんはい。  
マクダフ・兵士1・2・魔女　マルカム様をあいっに売り渡す気は、チリ一つ  
ほど、ミトコンドリア一つほどありません。

マクダフ　これでいいですか。  
マルカム　とりあえず、今のところは。  
マクダフ　いい加減、信用してくださいよ。

マルカム 君こそ、僕の境遇を理解しろ。王である親父が殺されたんだぞ。次、いつ自分が殺されるかわからない、そんなエリアにわざわざ帰ってきたんだぞ。びくびくもんだ、ひやひやもんだ。せっかく逃亡先でのんびり暮らしてたのに、わざわざ見つけにきやがって、

マクダフ あいつ倒したら、そんな危険もなくなりますから。

マルカム 僕が殺されたら、おまえのせいだからな。

マクダフ 大丈夫ですって、体を張ってお守りしますって。なあ。

兵士1・2・魔女 おー。

マルカム だって知ってる？ あいつどんだけ強いか。一万の兵を相手に、たった一人で戦ったんだぜ。

マクダフ 十万じゃなかったですか？

兵士1 百万じゃないですか？

兵士2 あれ、一千万かな。

魔女 一億かも。

マルカム・マクダフ・兵士1・2 ええーっ。

マクダフ それじゃまるまる国ひとつぶんじゃないか。

マルカム 強い、やっぱ強いよ、帰ろう。

マクダフ・兵士1・2 いやいやいやいや。

マクダフ 待つて、待つてください、必要なんです、あなたの存在が。

マルカム そんな国ひとつ滅ぼしちゃうような奴なんか、人間じゃない。

相手にできない。僕が百億人いたってどうにもならない。

マクダフ マルカム様は一人です。一人だからこそ、あなたに存在意義があるんです。ダンカン王亡き今、あなたこそ、この国を治める正統なお方。あいつなんかじゃありません。お願いします。救いましょう、

この国を。滅ぼしましょう、奴を。

兵士1・2・魔女 滅ぼしましょう。

マルカム 無理無理無理無理、ぜったい無理。だってほら、仮に滅ぼしたとしても、やっぱ器じゃないから、僕。国治めるとか、正統とか、そういうのちよつとあれだから。何ていうの。苦手？

マクダフ またそこ？

兵士1・2 ああー。

魔女 器じゃない。

マルカム そう、何度でも言うぞ、器じゃない。僕は王の器じゃない。いか、これは王子自らによる器じゃない宣言だ。歴史的な発言だぞ。メモをしろ、記録に残せ。

マクダフ マルカム様、

マルカム 向いてない、向いてないの、わかるでしょ？ 君ら僕のこと王子王子って言うけどさ、僕的にはたまたま王子に生まれちゃっただけだから。たまたまなの、たまたま。ねえ、わかってよ、このたまたま感。

マクダフ 産まれる場所は選ばません。私だってたまたまマクダフ。諦めてください、王子。

マルカム なんだよねえ。産まれてきちゃったんだよねえ。選んでないのにねえ。そこがまた呪わしいっていうか。希望してない職種に勝手につけられちゃったっていうか。でもこれ一般論じゃん、常識は疑えっていうじゃん、だからどうにか覆すロジックはないかって、日々考えあぐねているのだけど、

魔女 器じゃない。

マクダフ ぐだぐだ終わり。行きますよ。

マルカム やだ、やだったら。僕的意思是どくなる。僕だって大人だ、人間だ。自分のことは、自分で決めてもいいはずだ。

マクダフ ですから、今は一個人であることよりも、王子であることを優先させてください。祖国が瀕死なんです。どこの屋敷もあいつのスパイに入り込まれて、あいつの思いのままなんです。いつ誰が命を奪われてもおかしくない状況です。万人があいつの人質みたいなものなんです。あいつにこれ以上、好き勝手させていいんですか？

マルカム よくないよね。

マクダフ じゃあ戦いましょう。

兵士たち おー。

マクダフ いざ、進軍。

マルカム ちよ、ちよと待って。ねえ、君たち、その短絡どうにかかないの。これだから武人は嫌いなんだよ。あいつ、普通じゃないんだよ？ 思い出して、一億だよ？ そんな奴に、僕らみたいな普通な人間が、真っ向勝負しかけて勝てると思う？

マクダフ・兵士1・2 うーん。

魔女 普通の人間では勝てない。

マルカム だろ？

マクダフ ではどうしろと？

マルカム だから。

マクダフ はい。

マルカム 帰ろう。

マクダフ・兵士1・2 いやいやいやいや。



マクダフ 帰れません。マルカム様の帰る場所は、我らが母国スコットランド。逃亡先のイングランドではありません。

マルカム せっかくのんびりしてたのに。

マクダフ それは仮初めののんびりです。真ののんびりではありません。

兵士1 何か、弱点とかないんですかね。

マルカム 弱点ねえ。

マクダフ 聞いたことないな。

兵士2 酒が弱い。

マルカム 友だちだったらね、そういうのでもいいけどね。

兵士1 そういえば最近、不眠に悩まされていると聞きました。

魔女 眠りを殺した。

マルカム 不眠ねえ。

兵士2 不眠だと、幻覚症状に悩まされるとか言いません？

兵士1 あ、そうそう、そのせいかな、たまに変なこと呟いてるみたいで。

マルカム 変なことって？

魔女 バーナムの森が動くとき。

一同 ……。

一同、笑う。

マルカム バツカじゃねえの、あいつ。

兵士1 動くわけねえじゃん、森がさあ。

マクダフ 相当やられちゃってんな。

兵士2 末期ですなえ。

マルカム 森が動くくらいならさ、あいつだってやっつけられるよね。

マクダフ ああ、おつかしい。

兵士1 他には何か言っていないの？

魔女 ……女が産み落とした人間には、奴は倒せない。

一同 ……。

一同、笑う。

マルカム やっぱバカだ、あいつ。

兵士1 んじゃないやどっから産まれてくるんだって話ですよ。

マクダフ 運んでくんだろ、鳥とか猫とかが。

兵士2 お待たせしました、お子様でございます。

兵士1 おう三河屋、勝手口へ置いておけ。

兵士2 合点承知。お代は。

兵士1 ツケだ。

兵士2 ええ、旦那、そりやないですよお。

マルカム 貧乏長屋か。

マクダフ 流通ルートが知りたいですよ。

笑い、止む。

マルカム 何の解決策にもならない。

マクダフ 不眠だろうが、奴が強いことには。

兵士1 なんだつて、一億ですからね。

兵士2 俺も普通に、母ちゃん女だしなあ。

兵士1 たいがいの奴はそうだろう。

マルカム だめだ。やっぱ全然、勝てる気がしない。

マクダフ・兵士1・2 うーん。

マクダフ おのれ、マクベス。

4

引き続き、荒野の一同。

マクダフ どうしたもんかねえ。

マルカム こっちの戦力は？

マクダフ イングランドからも兵士を出してもらってるので、二万です。

マルカム 一億には程遠いな。

マクダフ・兵士1・2 あー。

魔女 バーナムの森、動くとき。

マクダフ だからんなわけないって言ってんだろ。

マルカム 森が動くくらいなら、あいつだつてやっつけられるわ。

兵士1 それだ。

マルカム・マクダフ・兵士2 何。

兵士1 不眠症のあいつのことです。もし幻覚が現実になったら、大パニック

を起こすんじゃないですか？

マルカム 何それ、森を動かすってこと？

兵士1 はい。一人一本ずつ、枝を頭にかざすんです。そうして奴の城に向かって動けば。

一同 バーナムの森が動いてくる。

マクダフ それだ。

マルカム 絶対すつげーびびるぜ、あいつ。

兵士1 ふあああ、バーナムの森があ、バーナムの森がああ。

兵士2 その隙に、うりやあ、とう、とったり。

マクダフ 行ける、行ける。

マルカム ちよつと待って。

マクダフ 何です？

マルカム 誰が直接、あいつとやりあうの？

マクダフ だから隙を、

マルカム その隙をつくのは誰？

マクダフ・兵士1・2 ……。

魔女 女が産み落とした人間には。

マクダフ うっさいな。そんな奴いないって言ってんだろ。

兵士2 あ、はいはい。

マルカム はい、どうぞ。

兵士2 女は仕方がないとして、産み落としたんじゃないんだったら。

マルカム え、産み上げたってこと？

兵士1 口から産まれる？

一同 いやいやいやいや。

マクダフ あ。

マルカム 何？

マクダフ 俺、産み落とされてない。俺、母ちゃんの骨盤弱いからって、

帝王切開で生まれたの。だから、切って、出して、

一同 産み上げた。おおお。

魔女 おまえだ。

マクダフ 俺だ。ん？ おまえ？

マルカム (構わず) いいじゃんいいじゃん。ねえ、いいじゃん。勝てる

んじゃね？ 行けるんじゃね？

マクダフ・兵士1・2 はい。

マクダフ がんばります。

マルカム 僕もちよつと、がんばっちゃおっかな。なんていうか、こう、

王子として、的な感じで？

マクダフ・兵士1・2 マルカム様。

マクダフ そのお言葉、お待ちしておりました。

マルカム いっちよ、行く？

一同 はい。

マクダフ ときの声。

一同 おー。

魔女 パ。パ。パ。パ。パ。

マルカム 王子マルカム、正統なスコットランドの王位後継者としてここ

に立つ。枝を持って。剣を持って。僕たちの平和な暮らしが、今ようやく

手の届く場所に見えてきた。我らの国を取り戻せ。皆の者、いざ前

進。

一同 おー。

マルカム バーナムの森よ、動け。

一同 待っている、マクベス！



# 『オセロー』

1

イアーゴとエミリア、登場。

エミリア どうもこんにちは。

イアーゴ こんにちは。

エミリア 今回上演するのは『オセロー』です。

イアーゴ 『オセロー』。そういえばゲームのオセロ、白黒白でひっくりかえ

ったりするやつ、あれは関係あるんですか。

エミリア 何を言っているの。あたりまえじゃないですか。むしろこの作品が

先ですよ。ゲーム自体は、1973年に茨城県水戸市で長谷川五郎さんという方が、子供時代に遊んだ記憶をもとにして、入院中の患者のためにと牛乳瓶の蓋を集めて考え出したのが最初です。

イアーゴ 牛乳瓶の蓋。

エミリア どんな名前をつけようかと英文学者の父・四郎さんに相談したところ、白と黒がひっくり返って競い合うならオセロしかない、命名されたわけですよ。

イアーゴ へえ。

エミリア 調べなさい、スマホでもなんでも。戦国ゲームばかりやってないで。

イアーゴ 時は来たれり。

エミリア いいから。

イアーゴ はい。

エミリア それで、今回は私たち、夫婦ということですね。

イアーゴ そうなんです。

エミリア 私が奥さんのエミリア。

イアーゴ はい、で、

エミリア この人が旦那さんのイアーゴ。

イアーゴ 旦那です。

エミリア 悪い人に見えるかも知れませんが、そんなことはありません。

イアーゴ 見えないよ。

エミリア この人ね、出世して、將軍オセローの旗持ちになったんです。

イアーゴ 本当は副官になりたかったんだけどね。

エミリア 旗持ちっていうのは現場のトップみたいなもの。暴走族でもありますでしょう、先頭で旗持ってパラリラパラリラ、あれと似たようなもんです。

イアーゴ 似せるな。

エミリア ちなみに副官は將軍の右腕。わかりやすくいうと、副官はナンバー2、で旗持ちはナンバー3。

イアーゴ そうですね。

エミリア できれば副官になりたくてね、この人、一生懸命慣れない根回ししたんですけどね。お偉いさんに頭下げて、僕を推薦してくださいってはい。

イアーゴ 私も頑張つて、たくさんつつみました、袖の下。

イアーゴ 言うなつて。

エミリア でもね、うまくいかなかったんです。生まれがよくないんです。私もそう。貴族ではあるけど、どちらかというと下層の出。片田舎の出身。

イアーゴ なんだよね。

エミリア 一方、副官に選ばれたキャシオーは、家柄もよく、インテリ、イケメン、インドアと、三拍子そろったスーパージェントルマン。

イアーゴ インドアだめでしょ。軍人なんだから。

エミリア こりやだめだ、相手にならない。聞いてからはしばらく落ち込みました。

イアーゴ 落ち込みました。

エミリア でもね、冷静に考えてわかったんです。副官というのは、將軍にとつて常に自分のそばにいる存在。そして將軍は軍人であると同時に政治家でもあります。政治を行う上で必要なのは？

イアーゴ ああ、ええと、

エミリア 話術です。気の利いたやりとり、センスのいい切り返し。たまにダジャレを言うって場をなごませもする。ダジャレつてのはウィットですからね。頭の回転が要求される。

イアーゴ うん。

エミリア キャシオーはそれができる。一方でうちのこの人、どうですか？ みなさん、この数分でこの人がどれだけ有意義な発言をしたか、覚えてますか？

イアーゴ してるよ。

エミリア してるよ。四文字。あんた四文字以上の言葉、しゃべったことある

の？

イアーゴ　しゃべってるって。

エミリア　しゃべってるって、8文字、小さい「や」とか「つ」を入れたからって文字数稼ぎにしかありません。

イアーゴ　おい。

エミリア　ですからね、この人は、

イアーゴ　おい。

エミリア　何？　しゃべってんだけど。

イアーゴ　いや、僕にもしゃべらせてって。

エミリア　ああ、そう。わかった。はい、じゃあ、何？

イアーゴ　僕、がんばるからさ。

エミリア　何を。

イアーゴ　出世できるように。今より、もっと、ずっと。

ああ。でも無理しないでね。あんたはあんたのペースですすめばいい。

イアーゴ　うん。

エミリア　私は私のペースで出世するから。

イアーゴ　え？

エミリア　あんたより先に上にいったりしてね。

イアーゴ　何で？

エミリア　私、デズデモーナ様の世話係になったの。

イアーゴ　え？　デズデモーナ様って、將軍様の奥様の？

エミリア　そうよ。うら若き、天使のような奥様よ。

イアーゴ　知らなかった。

新婚の將軍と奥様はあつあつのほかほか。その間に入れるのは空気もよめて機転のきく、イアーゴの妻しかいないだろうと。

イアーゴ　へえ、そう。

エミリア　あんたの顔に泥を塗ることはしないから。

イアーゴ　ああ。

エミリア　あんたも私の邪魔はしないでね。

イアーゴ　何で。

エミリア　じゃ、あとで、將軍様のお屋敷で会いましょう。

イアーゴ　お、おう。

エミリア　あんた。(投げキス)

エミリア、行く。

イアーゴ 人の芝生は青い。その青さを羨むことはいくらでもできるけど、その嫉妬には果てがない。イケメンでスマートで、頭の回転が速いキャシオーを羨ましいとは思うけど、僕は残念ながらキャシオーじゃない。僕は僕で、僕にすぎない。だから僕よりキャシオーが選ばれたのも、残念だなとは思うけど、まあ仕方ないかとも思う。だって選ぶのは僕じゃない。そりゃ僕だったら僕を選ぶけど……あ、いや、僕でも僕を選ばないかも。いやどうか。役割が人を育てるとも言うし。まあいいや。僕には僕のできることを、一生懸命やるだけだ。うん、いい天気だな。昼休みには公園に行こう。

イアーゴ、行く。

2

デズデモーナとエミリア、登場。  
ハイキング用のバスケット、日傘。

デズデモーナ うん、いい風。

エミリア 足元に気を付けてくださいね。

デズデモーナ 広い海。黄金色の太陽。こんな名所があるなんて。やっぱりこういう粋な情報はキャシオーね。こんど、あの人も連れてきてあげましょう。

エミリア そうですね。でもお仕事で、お時間がとれるかどうか。

デズデモーナ 気分転換は必要よ。そうだ、あなたの旦那様も一緒なら、きっと来るわ。どう？ ダブルデートよ。

エミリア うちは。

デズデモーナ ねっ、いいでしょう。お願い。

エミリア はあ。

デズデモーナ 嬉しい、楽しみ。愛してるわ、エミリア。ヴェニスにいるときは、お父さまはそういったことを一切させてくださらなかったの。かわりに家事をたくさん仕込まれたわ。料理、裁縫、お洗濯。家庭教師までいたのよ。粉石けんは何グラムって。

エミリア まあ。



デズデモーナ 幸せな結婚って何？ 私、お父さまが連れてくる求婚者はぜんぶはねのけてやったわ。だってみんな、単なる妻がほしいんですもの。私じゃなくて。わかるでしょ？

エミリア そうですね。

デズデモーナ ねえ、あなたはなんでイアゴと結婚したの？

エミリア うちは。

デズデモーナ 教えて。

エミリア 港にある酒場で働いていた私を、あの人が拾ってくれたんですよ。

デズデモーナ そう。

エミリア 早くして父を亡くして、生活が立ち行かなくなって。母は必死に止めたんですけど、そうも言ってもらえないでしょう。生きていかねばなりませんから。といっても、ほんの短いあいだですよ。すぐにあの人と出会って、結婚しちゃいましたから。でもね、お嬢様、聞いてください。そのときの私のモチようたら。港中の兵士が毎日店の入口に並ぶんです、私を一目見るために。

デズデモーナ まあ。

エミリア その中の一人にあの人もいた。最初は全然、気にもとめなかった。でもね、気づいたんです。どんなに私の帰りが遅くなっても、もう一人の足音が背後からすることに。

デズデモーナ まあ。

エミリア そうこうしているうちに、二人の距離がちぢまって。金色に輝く満月の下で、結婚しようと言ってくれた。

デズデモーナ へえ。

エミリア 声が小さい上にやたらとどもるんで、けっけっけと、最初は笑ってるのかと思いましたよ。何か面白いことでもあるのって尋ねたら、まっかつかな顔をして、結婚しましよって言いだして。思わず笑っちゃいましたよ、私。

デズデモーナ まあ、ひどい。

エミリア 一生懸命なのがかわいくて。

デズデモーナ ごちそうさま。

二人 (笑う)

デズデモーナ お父様はお元気かしら。

エミリア ご心配には及びませんよ。

デズデモーナ そうね。

エミリア いつか娘は人の手に渡るもの。それくらいわかってないと、一家の主はつとまりません。

デズデモーナ　でも私、駆け落ち同然であの人と一緒になってしまうたの。お父様を裏切るような形で。すごく辛そうな顔してたわ。激怒の裏に、はかりしれない悲しみがあった。それくらい私、見抜けるわ。

エミリア　仕方ありませんよ。

デズデモーナ　そうかしら。

エミリア　ええ。

デズデモーナ　だって、こんなふうにも言ったのよ。「父親をだました娘のことだ、同じ目にあうぞ、おまえもな」って。

エミリア　オセロー様に？

デズデモーナ　そう。まるで呪い。ひどいでしょ。そんな父親ってある？　諸手を挙げて、わかった、よし、いってこい、家庭は女の戦場だ、立派につとめを果たしてこいと、こうくるのが普通じゃないの？

エミリア　人によりますよ。

デズデモーナ　あの器の狭さ、たまらない。それに比べて、あの人の度量の広さ、懐の深さ。この星がいくつあっても埋まらぬくらい。戦でのたくさんさんの経験が、あの人を人格者に仕立て上げてくれたのね。

エミリア　常人には考えられないほどの経験を数多くなさったとか。

デズデモーナ　ええ。でも、あなたの旦那様もそうでしょう？

エミリア　うちは、まあ。そこそこで。

デズデモーナ　イアーゴって、とつてもいい人。私、好きよ。誠実で、正直で、思慮深く。言葉はうまくないけれど、それも実直な軍人ならではだって、あの人もよく褒めてるわ。

エミリア　光栄です。

デズデモーナ　ねえ、こんど四人で、キャシオーおすすめの神殿にいきましょう。うよ。巫女がいて、信頼できる御神託をくださるんですって。お祈りもできるし。夫婦の行く末を占いつつ、家内安全を祈願するっていうのはどう？

エミリア　まあ。ええ。

デズデモーナ　決まり。いきましよう。ダブルデート、決行よ。ああ、楽しみ。

四人で神殿。ピクニック。腕によりをかけてお弁当をつくるわ。

エミリア　お手伝いします。

デズデモーナ　もちろんよ。あなたの王子サンドなしではお弁当とは言えないわ。あ、ちょっと待って（ハンカチを出し）は、は、はっくしゅん。

エミリア　風が少し冷たくなってきましたね。

デズデモーナ　本当。そろそろ行きましよう。このあたりを一望できるレストランを予約してあるの。パンケーキが名物なのよ。

エミリア 楽しみです。  
デズデモーナ 私たち、食べてばっかりね。  
二人 (笑う)

デズデモーナ、行く。  
エミリアも一緒に行こうとするが、デズデモーナのハンカチが落ちていることに気づく。

エミリア あら、お嬢様ったら。(拾い) まあ、きれいな刺繍。  
デズデモーナ(声) エミリア、早く。  
エミリア はい。

エミリア、ハンカチを拾って行く。

3

オセローの執務室。  
イアーゴ、来る。

イアーゴ 閣下。お呼びでしょうか。  
オセロー この手紙を公爵に届けてくれ。  
イアーゴ かしこまりました。  
オセロー それとキャシオーに伝言を頼む。明日の午後に会議を開く。将校たちを集めるように。

イアーゴ は。  
オセロー どうだ、イアーゴ。新しい職務には慣れたか。  
イアーゴ は。まあ、  
オセロー 期待してるぞ。奥方のエミリアにもな。  
イアーゴ は。  
オセロー 我々は君たち夫婦に甘え通しだ。恩に着る。  
イアーゴ とんでもない、  
オセロー イアーゴ。デズデモーナをどう思う。  
イアーゴ ああ、そうですね、  
オセロー 純白すぎる天使、そうは思わないか。

イアーゴ ええ、

オセロー 私にはもつたないくらいだ。

イアーゴ ああ、

オセロー おまえもそう思うんだな。

イアーゴ まあ、

オセロー そう思うのか。

イアーゴ いえ。お似合いの二人でございます。

オセロー そうか。

イアーゴ は。あの、では、(失礼します)

オセロー 割れ鍋に綴じ蓋。

イアーゴ はい。

オセロー

故事成語だ。知らんのか。どんな人にもふさわしい相手がいるということのたとえだ。綴じはいとへんに又四つ。壊れた鍋には、修繕された蓋くらいがつりあいがとれてちょうどいいということだ。

イアーゴ は。

私は軍人だ。戦場のこと以外は何一つわからん。何しろの七つときからつい先日まで、生きる時間の大半を戦についやしてきた。いくら手柄をあげたと言っても、人間としては割れ鍋だ。しかしデズデモナーは？ そんな割れ鍋な私にちょうどいい綴じ蓋か？ 違う。あの初雪のような白さは生まれつき、天然自然のものだ。傷跡ひとつ見当たらん。我々は、釣り合わない。そうは思わないか？

イアーゴ そうですね、

オセロー 思うのか。

イアーゴ 思いません。

オセロー なぜだ。

イアーゴ ああ、

私より、キャシオーの方がデズデモナーにふさわしい。そうは思わないか。

イアーゴ キャシオー。

キャシオーは戦にほぼ出たことがない。しかし一方で学があり、博識で、機知に富んだ話もできる。私にはない能力だ。

イアーゴ は。

あれの父親も、キャシオーになら喜んで娘をやったと思わないか？

イアーゴ かな。

オセロー そう思うか。

イアーゴ いや、いえ、  
オセロー 思うんだな。  
イアーゴ めっそももない。  
オセロー キャシオーを副官にしたのは、間違いだったか。  
イアーゴ とおっしゃられますと。  
オセロー デズデモーナとの距離が、必要以上に近い気がする。見ていてそう  
思わないか。

イアーゴ ああ。  
オセロー そう思うのか。

イアーゴ いえ、  
オセロー 思うのか、思わないのか。

イアーゴ ああ、まあ、かな。はい。  
オセロー 思うんだな。

イアーゴ はい。あ、でも、ちょっと近いかな、くらいで、  
オセロー 浮気か。

イアーゴ え、  
オセロー 不倫、不義密通。

イアーゴ いや、  
オセロー ゆるし難い。

イアーゴ いや、  
オセロー 思い当たるふしがあるのか？

オセロー え？  
いい、隠さずとも。いやむしろ、隠さないでほしい。かえって傷つ  
く。

イアーゴ ああ、  
オセロー もし証拠があつたら、持ってきてほしい。友としての頼みだ。

イアーゴ はい。  
オセロー あるのか、証拠が。

イアーゴ いえ、今は。  
オセロー 今はないということは、これからあるということか。

イアーゴ あ、いえ、  
オセロー いや、いい。気にするな。待っているから、持ってきてくれ。気遣  
いは無用だ。どんな傷でも甘んじて受けよう。軍人としての誇りだ。

イアーゴ は。  
オセロー そのかわり、何もなかったら、殺す。  
イアーゴ え？

オセロー 意味なく私を不安に陥れた罪に対する、罰だ。

イアーゴ ……

オセロー 頼んだぞ。

イアーゴ は。

オセロー、行く。

イアーゴ ……は。

イアーゴ、行く。

4

オセローとデズデモーナの部屋。

デズデモーナ、芳香剤をふりまきながら来る。

デズデモーナ シュツ、シュツ、シュツ。いい香り。シュツ、シュツ、シュツ。

二人の部屋を清めましょう。

オセロー来る。

オセロー ただいま。

デズデモーナ おかえりなさい、私のジェネラル。今日もおつとめご苦労さまでした。

オセロー ああ。おまえの声を聴くだけで疲れが消える。

デズデモーナ そう？ いくらでも聴かせてあげてよ。ルールールー。

オセロー はは、可愛い小鳥だ。

デズデモーナ ねえ、提案があるの。こんど神殿ピクニックにいかない？ エ

ミリアとイアーゴも一緒に。ダブルデートよ。

オセロー 何だそれは。

デズデモーナ 知らないの？ 二組のカップルと一緒に遊びに行くの。ねっ、いいでしょう。キャシオーがおしえてくれた、御神託の名所があるのよ。

オセロー キャシオー。

デズデモーナ ええ。あの人、私にこのあたりの名所をたくさん紹介してくれ  
るのよ。美味しいお店も、たくさん。なんでも知ってるわ。

オセロー そうだな。

デズデモーナ あなたはいつがお休み？

オセロー さあ。

デズデモーナ 明日は？

オセロー 無理だ。

デズデモーナ 明後日は？

オセロー 難しい。

デズデモーナ しあさっては？ やなあさっては？

オセロー すまん。考えておく。

デズデモーナ 絶対よ。デズデモーナのお願い、聞いてくれなくちゃいやよ。

だってあなた、毎日お仕事づくで、全然休んでないんだもの。たまに  
は息抜きしなくっちゃ。あなたを思っただけの提案なのよ。わかるでし  
よ？

オセロー ああ、わかった。ありがとう。

デズデモーナ どうしたの？ 顔色があまりよくないわ。

オセロー 頭痛がするんだ、少し。

デズデモーナ ちよつと横になったら？

オセロー そうだな、そうしよう。は、は、はつくしゅん。悪寒がする。ああ、  
寒い。

デズデモーナ すごい汗。(ハンカチを探す) あら？

オセロー どうした。

デズデモーナ ハンカチが。さっきまで持ってたのに。いやだ、岬に落として  
きたのかしら。

オセロー まさか、あのハンカチではないだろうな。

デズデモーナ え？

オセロー 私がおまえに送ったハンカチだ。刺繍の入った。

デズデモーナ 違ったと思うわ。

オセロー 思う？

デズデモーナ 違います。たぶん。

オセロー たぶん？

デズデモーナ 今は手元がないの。ごめんなさい。あとで見せるわ。

オセロー あとで？ 絶対だな？

デズデモーナ どうしたの、急に。

オセロー あのハンカチはジプシー女が私の母に渡したものだ。刺繍糸に魔

法がかかっている。ハンカチを持っているあいだ、女は夫に愛される。しかし手ばなした途端、夫の愛は新たな港を求めて旅に出る。母が死ぬ直前に私にくれた、大切なものだ。

デズデモーナ そう。でも手ばなしたわけではなくてよ。

オセロー ならもってこい、今。

デズデモーナ 今はないのよ。

エミリア、来る。

エミリア どうなさったんです？ 大きなお声で。

オセロー 何でもない。

オセロー、行く。

デズデモーナ どうしたらいいの、私。あの人からいただいた大事なハンカチをなくしてしまった。

エミリア まあ。

デズデモーナ 見なかった？

エミリア 存じませんが。

デズデモーナ こまったわ、どうかして見つけないと。世界でたった一枚しかないものなの。

エミリア いつか、思わぬ場所から見つかりますよ。失せ物なんて、そんなもの。

デズデモーナ あの人の愛と一緒になくしてしまわないといいのだけど。

エミリア そんなこと、あるもんですか。

デズデモーナ 家を見つみからすみまで探してみるわ。どこかで見つけたらおしえてね。

デズデモーナ、行く。

イアーゴ、来る。

イアーゴ エミリア。

エミリア あんた。ねえ、お願いがあるの。これ（ハンカチを出し）、デズデモーナ様に渡してくれない？ どこかで拾ったとかなんとか言っ

イアーゴ いいけど。

エミリア 拾ってポケットにいれたまま、すっかり忘れちゃって。



イアーゴ なら、自分で（返せば？）

エミリア 拾ったとき一緒だったのよ。その場ですぐに返せばよかったんだけど、刺繍があんまり素敵でさ、こっそり書き写して、あとできちん  
と返そうと思っちゃったの。これで今私が返したらなんだか不自然  
でしょ？ 盗んだみたいで。

イアーゴ そうかな。

エミリア とにかくお願い。ちよつと私、一緒に探すふりしてくるから。あと  
で頃合い見て持ってきてね。

イアーゴ わかった。

エミリア お嬢様、私もお手伝いします。

エミリア、行く。

イアーゴ ほんとだ、可愛い刺繍。イチゴかな。

イアーゴ、行く。

5

オセローの執務室。

イアーゴ、ハンカチを手に来る。

イアーゴ 失礼します。

オセロー 君が。

イアーゴ は。

オセロー 今日はもう用事はない。早く下がって、明日に備えてくれ。

イアーゴ は。

オセロー 悪いが一人にしてほしい。頭痛がするんだ。

イアーゴ は。

オセロー （ハンカチを見つける）

イアーゴ 失礼します。

オセロー ちよつと待て。なんだそれは。

イアーゴ え、今、用事がないと、

オセロー それだ。貴様が手にしているそれ。

イアーゴ ああ、はい、デズデモーナ様の、  
オセロー なぜ貴様がそれを持っている。

イアーゴ そうですね、その、  
オセロー 拾った？

イアーゴ あ、はい。  
オセロー どこで。

イアーゴ その、  
オセロー この家でか。

イアーゴ いや。  
オセロー 外でか？

イアーゴ あ、はい。  
オセロー どこでだ。

イアーゴ (そういえば聞いてなかった)  
オセロー 将校宿舎の近くか？

イアーゴ あ、かな？  
オセロー あそこにはキャシオーも寝起きしてるな。  
イアーゴ ええ。

オセロー となると、やはり。  
イアーゴ ああ、

オセロー 不義密通の動かぬ証拠。  
イアーゴ ん？

オセロー ゆるさん。ゆるさんぞ、デズデモーナ。  
イアーゴ あ、いや、

オセロー よく持つてきてくれた。さすがわが友、恩に着る。辛い役目をあり  
がとう。今、まさにこの瞬間から君が私の副官だ。

イアーゴ え、あ、はい。ありがとうございます。  
オセロー 最初の指令だ。(自らの剣を渡し) キャシオーを、やれ。

イアーゴ ……  
オセロー 頼んだぞ。

オセロー 行く。  
イアーゴ えー……

イアーゴ、ハンカチを手にしたまま、行く。

デズデモーナとオセローの部屋。  
デズデモーナ来る。

デズデモーナ おーい。ハンカチ。ハンカチやーい。どこに行ってしまったの？ 迷信だとは思うけど、あの人が言うとお当らしく聞こえる。あの人の愛、私から離れていくのかしら。

オセロー、来る。

オセロー こんにちは。

デズデモーナ あなた。あの、その、

オセロー ご機嫌うるわしゅう、セニヨリータ。

デズデモーナ ……まあ、悪い冗談。セニヨリータは独身の女性に使うのよ。

オセロー こういう粋な外来語が好きか。

デズデモーナ 時と場合によるわ。今はちよつと。

オセロー 無粋な男で悪かった。

デズデモーナ そんなこと。

オセロー おまえのハンカチを拾った者がいる。

デズデモーナ 本当？ どこで？

オセロー 将校宿舎だ。

デズデモーナ まあ。

オセロー キヤシオーもそこにいる。

デズデモーナ ええ、そうね。でも何でそんなところに。不思議だわ。

オセロー それが貴様の手練手管か。

デズデモーナ どういう意味？

オセロー この純白じみた淫売が。(デズデモーナの首をしめる)

デズデモーナ うつ。

エミリア、来る。

エミリア 奥様、奥様、すみません、ハンカチ、ありました。うちの旦那が拾ってくれたみたいで……何してるんです。

デズデモーナ この人を責めないでちよつとだいな。(絶命)

エミリア ちよつと、ちよつと、ちよつと。

オセロー 裏切り者を処罰した。

エミリア ハンカチ一枚なくしたからって？  
オセロー 不義密通の動かぬ証拠。この女はキャシオーと通じていたのだ。  
エミリア 誰がそんなことを？  
オセロー 信頼できる男だ。  
エミリア まさか。  
オセロー その、まさかだ。  
エミリア あたしも馬鹿だがあんたも馬鹿だ。圧倒的に上の馬鹿だ。

イアーゴ、剣を持って来る。

イアーゴ 閣下、閣下、やっぱちよつと、やめときます。暗殺とか、僕にはちよつと。

エミリア、振り向きざまにイアーゴの手にした剣に刺さる。

エミリア うつ。 / イアーゴ あつ。

エミリア 奥様、これでおゆるしを。

エミリア、デズデモーナの近くで絶命。

オセロー 全て貴様の陰謀か。

イアーゴ え？

オセロー、イアーゴの手から剣を奪う。

オセロー 裏切り者を処罰する。(自害) おまえはまったき白だった。(絶命)

イアーゴ 閣下。奥様。エミリア。

エミリア、エミリア、エミリア。  
誤解だよ、みんな。

死体の中で一人残るイアーゴ。

# 『アントニーとクレオパトラ』

0

案内人登場。

案内人

時は古代、ローマ帝国華やかなりし頃。その領土はローマを中心に

東西南北へと大きく広がっておりました。ところがその大帝国の立役

者、ジュリアス・シーザーは「ブルータスよ、おまえもか」と議会で暗

殺されてしまう。続く時代を、オクタヴィアヌス、レピドゥス、アント

ニーの三人で治めようとはしたものの、内乱に次ぐ内乱。大將軍アント

ニーは地方の王族を制圧すべく、遠路はるばる東方へやって参りまし

た。しかしそこで動き出したは運命の齒車、エジプトの女王、絶世の美

女クレオパトラと奇跡の邂逅。二人は恋に落ちました。為政者同士の大

恋愛、いったいどうなることでしょう。

おや、やってきましたよ。ちよつと覗いて見てみましょう。

1

アレクサンドリア、クレオパトラの宮殿。

クレオパトラ、アントニー、シャーミア、マーデイアン登場。

クレオパトラ アントン。

アントニー クレパン。

二人 えへへへ。

クレオパトラ アントン。

アントニー クレパン。

二人 えへへへ、

クレオパトラ アントン。

アントニー クレパン。

マーデイアン アントニー様。

二人 ……

クレオパトラ アントン。  
シャーミア クレオパトラ様。

二人 ……

マーデイアン ローマからの使者がおいでです。至急、お会いしたいと。  
アントニー 取り込み中だ、追い返せ。今は目の前の太陽で日向ぼつこの最中だ。

クレオパトラ うふふん。

アントニー あったかい。あったかいな。今日もぼかぼか春の日だ。

シャーミア (扇であおぐ)

アントニー クレパン。

クレオパトラ なあに、アントン。

アントニー きょうは何して遊ぼつか。

クレオパトラ そうね。市場で奴隷ごっこ？

アントニー 皮の鞭で叩かれながら、ニワトリの山を運んだり？

クレオパトラ こぼれた麦を拾ったり、商人たちと飲みくらべしたり。

アントニー 酒なら負けん。

クレオパトラ わたくしも。

アントニー・クレオパトラ あっはっはっは。／おっほっほっほ。

シャーミア お戯れを。

アントニー 飲みたくなつたな。おうい、誰か、酒を持って。

クレオパトラ 迎え酒ね。

道化、瓶と杯を持って現れる。

道化 酒でござい。

マーデイアン 何者だ。

クレオパトラ 旅回りの道化よ。ゆうべ市場で拾ったの。

アントニー お、何だ、おまえ既に酔うているな。

道化 毒見でございますよ、將軍さま。(杯を渡す)

アントニー おまえに頼んだ覚えはないが。

クレオパトラ 見て、見事な千鳥足。

アントニー・クレオパトラ あんよが上手、あんよが上手。

道化 さて、千鳥足ついでに、ちよいと皆さんを占って差し上げましょう。

アントニー よっ。

クレオパトラ 来たわね。

道化 ううむむ、よし、見えるぞ見えるぞ。あんた(シャーミア)はあんた(マ

ーデイアン)よりちょっと長生き、あんた(クレオパトラ)はあんた(アントニー)よりちょっと長生き。

シヤーマリア これ、失敬な。

道化 何であれ、今を精一杯楽しむべし。以上。

アントニー よかった。クレパンのが俺より長生きだ。

クレオパトラ やだ、ちよつと、信じるの？

アントニー 冗談だとしてもさ。俺、クレパンがいないのに生きてるのとか、やだもん。

クレオパトラ そんなこと言ったら、あたしだってやだもん。ねえ、そういうときは一緒にいこう。

アントニー ううん、わかった、考えとく。

クレオパトラ 考えとくじゃなくて。

アントニー わかった。じゃあ、そうしよ。いくときは一緒。

クレオパトラ うん。

二人 えへへへ。

マーデイアン アントニー様。ローマからの使者は、この三日で五千とんで三十人目でございます。

アントニー しつこいな。知ってるよ。

マーデイアン 僭越ながら、どう見積もってもただ事ではございません。せめてほんの少しの間でもお会いになられては。

クレオパトラ アントン。

アントニー ん？

クレオパトラ 気になってる。

アントニー ううん。

クレオパトラ 気になってる。ローマ、フィルヴィア、オクタヴィアヌス。

アントニー なってない。

クレオパトラ なってる。

アントニー なってない。

クレオパトラ なってる。行けば？行って話聞いてくればいいじゃん。

道化 行くさだめ。

アントニー (行こうとする)

クレオパトラ それでローマに帰りたくなればいいじゃん。帰って議会に媚売って、オクタヴィアヌスにいいように使われて、フィルヴィアと愛のない不毛な生活を送ればいいじゃん。馬鹿、もういい。

アントニー クレパン。

クレオパトラ 大変お世話になりました。ねえシヤーマリア、よく効く毒があった

わね、こないだ死刑に使ったやつ。

アントニー おい。

シャーマリア なりません。

クレオパトラ シャーマリア。

アントニー クレパン。

クレオパトラ つーん。

アントニー 大丈夫だって。俺はどこにもいかないよ。行ったとしても、心は

ここだ。

クレオパトラ …

アントニー 愛してる。

クレオパトラ (頷く)

アントニー よし。(マーデイアンに) オクタヴィアヌスからの使者だな。

マーデイアン は。

アントニー また内乱の知らせだろう。あいつめ、戦のときばかり俺の力をあ

てにする。武器出せ、兵出せ、槍を出せ。俺はローマのかたつむりか。

クレオパトラ 行くの？

アントニー うん。ローマ人だからね。

クレオパトラ アントン。

アントニー 大丈夫、だってアントン、強いから。

クレオパトラ うん、でも、

アントニー 帰ってくる。信じるよ。ここアレクサンドリアこそ、わがふるさ

と。この胸こそが、帰り来る場所。

クレオパトラ アントン。

アントニー クレパン。

シャーマリア・マーデイアン (拍手)

道化 行くさだめ。

クレオパトラ うるさい。

アントニー マーデイアン、使いの者を。

マーデイアン は。(行く)

クレオパトラ アントン、絶対だよ。絶対帰ってくるんだよ。

アントニー 当たり前だってクレパン。

クレオパトラ 寂しいからって他の女に手出しちゃだめだよ。

アントニー しない、しないしない。もうね、興味ないから、クレパン以外。

クレオパトラ 本当？

アントニー 本当。めっちゃ本当。

クレオパトラ クレパン、嬉しい。



アントニー アントンも嬉しい。  
アントニー・クレオパトラ えへへへ。

マーデリアン、使者を連れて戻る。

マーデリアン お連れしました。

アントニー うむ。

使者 アントニー様、お心を確かに。

アントニー 手短に言え。

使者 奥方フィルヴィア様が、亡くなりました。

アントニー え？

使者 弔いの儀にご参列たまわりたく、直ちにローマへご帰還を。

アントニー ああ。

クレオパトラ、気を失う。

アントニー クレパン。

シャーミア・マーデリアン クレオパトラ様。

2

アレクサンドリア、クレオパトラの宮殿。  
クレオパトラ、シャーミア、マーデリアン。

三人 ……

クレオパトラ (手拍子)

シャーミア (和して手拍子)

マーデリアン (歌いだす)

クレオパトラ・シャーミア (やめる)

マーデリアン ……

クレオパトラ 玉突きを。

シャーミア 玉突きを。

マーデリアン 玉突きを。

クレオパトラ (マーデリアンに) おまえのタマで。

マーデイアン 遺憾ながら、それは。  
クレオパトラ 捨てたの？

マーデイアン いえ。母なるナイルに流しました。また来世で会いましょうと。  
クレオパトラ マーデイアン。生まれ変わっても男がよいか？

マーデイアン はい、私は。

クレオパトラ またタマをとられても？

マーデイアン そうなったらなったで、こうしてお仕えできる光栄にたまわれ  
ますので。

クレオパトラ ふうん。シャーミア、おまえは？

シャーミア 私は、クレオパトラ様のようにしたら、女がようございます。

クレオパトラ 私？私のどこがいい。何がいい。

シャーミア 全てでございますよ。もう、大好き。

クレオパトラ ありがとうシャーミア。そなたの愛で、この胸の空洞が埋まると  
よいのだが。

シャーミア・マーデイアン ……

クレオパトラ アントニーは（帰ってくるかしら）

シャーミア クレオパトラ様、釣りなどいかがです？

クレオパトラ 釣りねえ。

マーデイアン いいですね、母なるナイルで。

シャーミア 母、母って、さてはマーデイアン、マザコンか？

マーデイアン お戯れを。母はナイルに流しました。

シャーミア・マーデイアン おほほほほ。

クレオパトラ 釣り下手だったわよね、あの人。全然釣れないんだもん。エサの  
揺らし方が下手なのよ。ナイルの魚は馬鹿じゃないからちゃんと見抜く。

餌か、それとも敵（かたき）の餌か。あの人、帰ってくるかしら。

シャーミア お戻りになりますよ。

クレオパトラ いい。手紙を書きます。

マーデイアン クレオパトラ様。

シャーミア もうこの半年で一萬五千三百四十七通目ですよ。

マーデイアン アントニー様も目を通すそばから次がこられては、返事を書く

暇もないでしょう。

シャーミア お体にも障ります。どうぞ少しでもお休みになって。

クレオパトラ シャーミア、おまえは恋をしたことがあるか。

シャーミア はい？ ええ、まあ、多少は、それなりに。

クレオパトラ 多少ではない、どつぶりの恋だ、ずぶずぶの恋だ。ナイルの泥よ  
り粘度の高い、グブグブのヌタヌタの恋だ。眠れば夢で愛し合い、起き

ればこの身の冷たさを知る。だからもう、夢を見るのを諦めた。太陽の輝きさえも漆黒の闇。

シャーミア クレオパトラ様。

クレオパトラ ローマからの使者はまだか。

マーデイアン 見て参ります。(行く)

クレオパトラ 内乱は激しいと聞いた。せめてご無事であってほしい。

シャーミア 本当に。

マーデイアン、再び現れる。

マーデイアン ローマからの使者がおいでです。

クレオパトラ えっ。通せ。

マーデイアン、使者を連れてくる。

クレオパトラ ご苦勞であつた。

使者 は。

クレオパトラ 死刑。

使者 は、え、は？

クレオパトラ 遅すぎんよ、あんた。出発してから今日で昼と夜が三十回ずつあつたわよ。ローマまで片道十四日、往復で二十八日。三十ひく二十八で、二日の糊代があるんだけど、いったいこれどういうこと？

使者 は。ええとですね、馬も少しは休ませなくてはならずですね、

クレオパトラ シャーミア、毒を。

使者 ええっ。

シャーミア クレオパトラ様、

クレオパトラ こないだのあれ、よかつたわね、トリカブトをイチゴシロップで煮詰めたやつ。

使者 陛下、

クレオパトラ だつてどうせ手紙渡せなかつたつていうのよ。どつかの山奥に出兵しちゃつて会えなかつたとか言つて。

使者 お渡しはできました。

クレオパトラ 遅いのよ、帰ってくるのが。

シャーミア クレオパトラ様、お言葉ですが、我が宮廷にはもう使者がおりません。この者が最後の一人にございます。

使者 えっ。

クレオパトラ そうなの？

シヤームリア はい。ここはひとつ、ぐっとこらえて、生きながらえて頂く方が。クレオパトラ ふうん。そっか。わかった、じゃ、働いて。

使者 はい。もう、精一杯働かせて頂きます。おありがとうございます。

マーデイアン よかったね。

クレオパトラ で？

使者 は。

クレオパトラ 元気？あの人。やってた？ もう、バンバン、敵、倒してた？

使者 は。お言葉ですが陛下、内乱は合議の末、一滴の血も流れることなくおさまりました。

クレオパトラ えっ？ あ、そう。わかってんじゃん、ローマ。ねえ、シヤーム

ア。

シヤームリア ええ。戦争はコストパフォーマンスが悪うございますから。

クレオパトラ なのよね。でも、そういうのの割くうのって、結局あとから征服された周辺国だけだね。軍隊駐屯させるとか、後援物資送れとか。あ、そ  
うだ、で、

使者 は。

クレオパトラ オクタヴィアヌスとはうまくやってんの、あの人。

使者 は。それはもう。

クレオパトラ よかった。じゃあうちはしばらく安泰だわ。

使者 本当の家族のように仲睦まじく。

クレオパトラ ……

使者 (改まって)クレオパトラ女王陛下。

クレオパトラ (耳をふさぐ)

使者 ……

クレオパトラ 行け、帰れ。聞きとうない。

マーデイアン どうされました。

クレオパトラ おまえの顔に書いてある。私にとってよくない知らせと書いてある。行け、帰れ。消えうせろ。

使者 は。では、これにて。(行こうとする)

クレオパトラ 待て。行くな。……言え。

使者 は。アントニー様は、オクタヴィアヌスの姉、オクテーヴィア様と、ご結婚なされました。

クレオパトラ ……おかあさん。

シヤームリア 落ち着いてください、女王様。

クレオパトラ ナイル、ルアー、アレクサンドリア、アレクサンドリア、あ、あ、

マーデイアン　しりとりですね。あ、あ、愛？

クレオパトラ　神々に滅ぼされる。おぞましい疫病にとりつかれる。

マーデイアン　すみません、すみません、

使者　お許しを、どうか、

クレオパトラ　大地よ焼き尽くされる。ナイルよ、その先に大きく広がる海よ、

天の彼方へ干上がり失せる。人類よ滅びよ、世界は蛇の王国となるのだ。

そしてそのまま自家中毒で滅びゆけ。愚か者以下の愚か者、そなたの土産はクレオパトラには高級すぎてトゥーマッチだ。消えろ、消えろ、消えろ、消えろ、消えろ、消えろ。

使者　失礼します。(行こうとする)

クレオパトラ　あ、ごめん、嘘、違う、待って、違うの、ねえ待って。ごめん、

あの、ちよつとびっくりしただけ。あの、一応さ、もう一度だけ聞くんだけど、え、ねえ、あの人は結婚したの？

使者　すみません。

クレオパトラ　結婚したの？

使者　あー、

クレオパトラ　結婚したの？

使者　はい。

クレオパトラ　雷は打つ者を選ばない。(短剣を抜く)

シャーミア　なりません。

マーデイアン　逃げて。

使者　失礼します。(走って逃げて行く)

クレオパトラ　おのれマーデイアン、

シャーミア　(マーデイアンに)あの者に食事と宿を。

マーデイアン　は。(行く)

クレオパトラ　星々よ沈め。ナイルの毒蛇に満たされる。実りはハデスにくれて

やれ。

シャーミア　お気を確かに、女王様。

クレオパトラ　うう、うう。聞いた？ねえシャーミア、聞いた？

シャーミア　ええ、もう、しかとこの耳で。

クレオパトラ　信じられない、ありえない。ねえ、おかしいよね。おかしいよね。

シャーミア　ええ、ええ。

クレオパトラ　帰ってくるって言ったのに。

シャーミア　お相手はオクタヴィアヌスの姉とのこと。これは政略結婚でござ

いませう。内乱をおさめるために、アントニー様とオクタヴィアヌスは手を結ぶ必要があったのです。

クレオパトラ え、でも、結婚？それ必要？ いいじゃん誓約とか、契約とかで。なんで結婚？

シャーミア 必要です。アントニー様という船を、ローマの港に縛り付けるために、錨を深く下ろす必要が。

クレオパトラ ねえ、シャーミア。それって、アレクサンドリアに行かせないため？

シャーミア さようでございます。

クレオパトラ オクタヴィアヌスの姉、オクテーヴィアと言ったか。

シャーミア はい。

クレオパトラ ペンと紙を。アントニーに手紙を書きます。

シャーミア は。

クレオパトラ 錨と船を結ぶ鎖を、毒蛇の蜜でぶち壊してくれる。

クレオパトラ。シャーミア、行く。

2・5

案内人、登場。

案内人 やあ、と。ひどいですね、アントニー。奥方、つまり本妻のファルヴィアが亡くなったのをきっかけにローマに戻った矢先に、すぐ新しい奥さんをいただいちゃったわけで。これにはクレオパトラ、さすがに怒りました。さて、いったいどうなりましたでしょう。  
おや、やってきましたよ。

3

クレオパトラ、シャーミア、マーデイアン、使者。

マーデイアン・使者 えらいこっちゃえらいこっちゃよいよいよい。

マーデイアン あんたのお名前なんてえの。

使者 オクテーヴィアと申します。

マーデイアン あんたはどんな女なの。

使者 額は低く、顔は丸顔、ほとんどおかめでございます。

マーデイアン・使者 えらいこっちゃえらいこっちゃよいよいよい。

マーデイアン 歩き方はどんななの。

使者 腰をかがめて姿勢を低く、謙虚に謙虚に歩きます。

マーデイアン あんたのお歳はいくつなの。

使者 三十越えのやもめです。

マーデイアン・使者 えらいこっちゃえらいこっちゃ、

シャーミア ストップ、ちよつとストップ。やもめ？ 何、どういうこと？

使者 前の旦那様に若くして先立たれまして、二度目の結婚にございます。

シャーミア 使い回しの古着じゃない。そんな女が和解の楔？

マーデイアン よろしいじゃございませんか。そのぶん、クレオパトラ様への

愛はさめやらぬというもの。

クレオパトラ 浅い。

マーデイアン は、

クレオパトラ 浅いっていつてんのよ、そのタマなし。あんたのアタマはア

ね、ア。帰ってこないわよ、あの人。

マーデイアン そうですかねえ。

クレオパトラ じゃあなぜ手紙の返事が来ないの。

マーデイアン それは、まあ、その、ね、何でしょう、

クレオパトラ ふん。あんたに八つ当たりしてもしょうがないわね。書けない

のよ、手紙一つ。ここに来るなんて、なおさらよ。でしよ、シャーミ

ア。

シャーミア はい。それはつまり新しい妻を裏切るということ。そしてそれ

は、オクタヴィアヌスを裏切り、ひいてはローマを裏切るということ。

クレオパトラ 見えない鎖でがんじがらめ。あの人も、それがわからないほど

呑気じゃないわ。それに。

マーデイアン はい。

クレオパトラ もし仮に、帰って来たとしたら、どうなると思う？

マーデイアン 怒られる。

クレオパトラ 誰に？

マーデイアン オクタヴィアヌスに。

クレオパトラ そうね、よくできました。でもそれだけじゃすまない。戦争

よ。

マーデイアン 戦争。

クレオパトラ オクタヴィアヌスはアントニーを追って攻め込んでくるわ。あいつにとつてアントニーは邪魔な存在なの、ローマ帝国をわがものとするために。そうでしょ、その腑抜け。

使者 は。ローマ帝国を支配する三人のうち、一人はレピドウスという完全なる太鼓持ち。敵にございませぬ。アントニーさえ亡きものとすれば、オクタヴィアヌスはただ一人の王となる、とローマではもっぱらの噂。

クレオパトラ おまけにエジプトに攻め入るいい口実にもなる。まったく、なんだ野心家だわ。そしてそうなることがわかっててやもめを押しつけたとすると。

マーデイアン あっ。

クレオパトラ むしろあの人は帰ってこない方がいいわね。あの人のためにも、そしてこのエジプトのためにも。

シャーミア ええ。

クレオパトラ だって、だって私。

シャーミア クレオパトラ様。

クレオパトラ 受け入れちゃう、私。あの人が戻ってきたら。ただいまクレパインって言われたら、お帰りアントンって言っちゃう。もう二度と離さないよって、ぎゅっと抱きしめちゃう。でもだめでしょ。だめなんですよ。だってそうならどうなる？ ローマの裏切り者のあの人を、私が、このエジプトの女王がぎゅっと抱きしめたらどうなる？ わかるでしょ？ わかっているの。わかっているのよ。でも。だから。

シャーミア クレオパトラ様。

クレオパトラ ペンと紙を。手紙を書きます。二度と戻って来るなって。これが最後の手紙です。

アントニー、現れる。

アントニー クレパン。

クレオパトラ ……

アントニー ただいま。帰って来ちゃった。

クレオパトラ ……

アントニー つまんなくてさ、ローマ。

クレオパトラ ……

アントニー ごめん。……えへっ。やっぱ帰るね。

クレオパトラ (アントニーをつかまえる)

アントニー ……クレパン。



クレオパトラ アントン。(抱きしめ) お帰り。

アントニー (抱きしめ) ただいま。

クレオパトラ マーデイアン。

マーデイアン は。

クレオパトラ 戦の用意を。

マーデイアン かしこまりました。

一同、行く。

3・5

案内人

クレオパトラの読み通り、オクタヴィアヌスはアントニーを追い、

何とエジプトに宣戦布告。ただし、アントニーを生き返りて引き渡せば攻め込まないとのこと。しかしクレオパトラは受けて立った。祖国と愛を守るべく、自らも武器を持ち戦場へ。渦中の人、大將軍アントニーも武運を賭けて戦場へ。さあどうなるエジプト、どうなる愛に燃える二人。

4

戦場。アントニー、闘う。

攻め、追い詰められ、攻め、追い詰められる。

戦況を見つめていたクレオパトラ、シャーミア、マーデイアン、使者、去る。

アントニー、逃げる。

アレクサンドリアの宮殿。

アントニー、一人来る。

アントニー

クレパン、クレパン。ごめんね、アントン負けちゃったよ。クレ

パン、どこ？ クレパン。何で先に帰っちゃったの。僕が負けそうだった

から？ クレパン。ねえ、クレパン。女王。クレオパトラ。

マーデイアン

(現れ) アントニー様。

アントニー あ、おい、女王はどこだ。宮殿のどこにも見当たらぬぞ。

マーデイアン すでに廟（びょう）におられます。

アントニー びょうつて。

マーデイアン お墓にございます。

アントニー、剣で自害する。

マーデイアン えっ。

アントニー 追いつくぞ、クレパン。

マーデイアン えっ、ちよつと、やだ、じゃなくて、違う、違う違う違う、アン

トニー様、アントニー様。やだ、ちよつと、まだだつてば。ちよつと、ええ、ねえ、もう、誰か、誰か。

カゴを持った道化、現れる。

道化 へい、お呼びでござんすか。

マーデイアン あ、道化。お願い、この人一緒に運んで。ここで死なれちゃ困るのよ。

道化 おつとこいつあ。ご存命で？

アントニー クレパン。

マーデイアン 生きてる。アントニー様、クレオパトラ様は廟で帰りを待っておられます。二人であの世にいきましょうつて。

アントニー それを先に言え。

マーデイアン そうよね、ほんと、ごめんなさい、ごめんなさいね。以後気をつけます。気をつけますから。

アントニー うう。

マーデイアン ええ、やだ、ええ、ねえ、苦しそう、苦しそう、どうしよう、ちよつと、どうしよう。

アントニー 運べ。

マーデイアン あっ、そうか、そうよね。ただいま、すぐにお連れします。ねえ、あんたちよつと、そっち持つて。

道化 はいよつと。

アントニー、マーデイアンと道化に運ばれて行く。

クレオパトラの廟。

クレオパトラ シヤーミア、どう思う。

シヤーミア はい。

クレオパトラ アントニーを生きのまま渡せば、エジプトの領土と王位の継続を認める。そういう話だったな。

シヤーミア はい。

クレオパトラ 信じてよいと思うか？

シヤーミア ……

クレオパトラ おまえはどうしたい？

シヤーミア 私は、クレオパトラ様のお心のままに。

クレオパトラ そうか。

シヤーミア 誰か来ます。何者か。……アントニー様。

クレオパトラ えっ。

シヤーミア アントニー様です、マーデイアンともう一人が抱えて参りま

す。

クレオパトラ アントン。

アントニー、マーデイアンと道化に支えられて現れる。

アントニー クレパン。

クレオパトラ アントン。やだ、何で、どうして。

アントニー ごめん、早とちりしちゃった。廟にいるって言うから。

クレオパトラ マーデイアン、貴様、

マーデイアン ごめんなさい、

アントニー いいの、こうしてまた会えたから。よかった。僕の太陽、ぼか

ぼかだ。

クレオパトラ アントン。

アントニー クレパン。一つ聞いていい？

クレオパトラ うん。

アントニー さつき、先に帰っちゃったよね。どうして？

クレオパトラ 準備しとこうと思って。

アントニー 一緒にいく準備？

クレオパトラ　そう。

アントニー　そっか。ごめんね、僕、負けちゃった。

クレオパトラ　ううん、アントン、がんばったよ。クレパン、見てた。

アントニー　よくないよ。負けは負けだ。ねえクレパン、オクタヴィアヌスに  
お願いしな。エジプトを残してくださいって。大丈夫、きっとどうにかし  
てくれる。

クレオパトラ　アントン。

アントニー　ごめんね、役に立てなくて。僕は太陽に甘えっぱなしだ。いつだ  
ってひなたぼっこ。あつたかかったよ、ありがとう。

クレオパトラ　アントン、アントン、だめ。シャーミア、(薬を)

アントニー　いい、大丈夫。ごめん、先にいく。待ってるから。愛してるよ、

クレパン。(息絶える)

クレオパトラ　アントン、アントン、アントン。巨大な星が落ちたぞ。なぜ空

が裂けぬ、雷鳴が轟かぬ。大地よ響け。追悼の鐘を。

道化　偉大な武人であられましたな。

クレオパトラ　おお、道化か。ご苦労だった。どうだ、あつたか。

道化　は、こちらに。ご所望のイチジクにございます。(カゴを渡す)

クレオパトラ　(中身を確かめ)確かに。

シャーミア　イチジク？

クレオパトラ　市場へ使いを頼んだのだ。デザートが欲しくてな。シャーミア、

ジャスミンの茶をいれておくれ。マーディアン、この者に褒美を、

マーディアン　(カゴを取り上げ、中身を見る)蛇。

クレオパトラ　イチジクだ。

道化　よく効くイチジクにございます。

マーディアン　なりませぬ。

クレオパトラ　返せ。最後のデザートだ。

マーディアン　ならば毒見を。

クレオパトラ　やめろ。早まるな。私のデザートだ、最後のおやつだ。分けてや  
るつもりはさらさらない。返せ。そなたたちは生きる、生きてオクタヴィ

アヌスの保護を受ける。

マーディアン　嫌です。

クレオパトラ　まつりごとからは足を洗え。大地を耕し、生き物を飼い、季節の  
恵みで天寿をまっとうするのだ。

マーディアン　嫌だ。お慕い申し上げておりました。

使者　(現れ)女王陛下。

クレオパトラ　取り込み中だ。

使者 オクタヴィアヌス殿からの伝言にございます。

クレオパトラ 何だ今更、手短に言え。

使者 早まったことはなさらぬよう。

クレオパトラ アントニーの死が伝わったか。

使者 エジプトの王位と領土は侵されぬことを約束する。

シャーミア ああ。

マーデイアン よかった。

クレオパトラ それから？

使者 は。

クレオパトラ 続きがあるだろう。ひいては、とか、つきましては、とか。

使者 は。恐れながら、申し上げます。つきましては、オクタヴィアヌス殿の口

ーマ凱旋に、ご同行たまわります。

クレオパトラ 凱旋パレードの見世物になれど。

使者 恐れながら、さようにございます。

クレオパトラ そうか。

クレオパトラ、アントニーの剣を抜き、使者を刺す。

使者、息絶える。

クレオパトラ オクタヴィアヌスよ、これが答えだ。

マーデイアン (蛇に自らを噛ませる) うつ。

シャーミア マーデイアン。

マーデイアン 毒見にございます。おお、これは。大変めぐりのよい。(息絶える)

クレオパトラ 本当だ。さすが、ナイルのイチジクだ。

シャーミア クレオパトラ様。

クレオパトラ 怖いか、シャーミア。私は何も怖くない。こうしておまえが側にいる。それに、アントニーが待っている。(噛ませる) 生まれ変わったら、

ただの女に。(息絶える)

シャーミア クレオパトラ様。

道化 大きな星が、いま一つ。

シャーミア 道化。もう少し、ここにいてもらえる？

道化 よござんすよ。

シャーミア ありがとう。またね。(噛ませる) うつ。あ、本当だ、めぐりが

早い。クレオパトラ様、生まれ変わっても、あなたのおそばに。(息絶える)

道化

よく効くな。おやすみなさいまし。ああ、運命の足音が聞こえる。今宵のしとねはここにするか。(囁ませる) おやすみ、世界。またいつか。(息絶える)



## 『リア荒野』

〔設定〕『リア王』の3幕2場より

長女ゴネリルと次女リーガンによって屋敷を追い出されたリアは、道化一人を連れて嵐の荒野をさまよっている。

荒野で嵐に揉まれているリアと道化。

リアは王冠を頭に乘せている。

リア 風よ、吹け、  
道化 吹け、  
リア その頬が割れるまで！ 吹きまくれ！  
道化 吹きまくれ！  
リア 豪雨よ、嵐よ、怒濤の水で塔を沈め、その頂にある風見鶏を溺れさせろ！  
道化 溺れさせろ！  
リア 思考の速さで広がる硫黄の火、稲妻よ。樫の木を裂く雷（いかずち）の先  
道化 駆けよ、焦がせ、この白髪頭を。  
リア 白髪頭を。うー、じいさん、ずぶ濡れだ。さすがにこれは障るって。馬  
リア 小屋か何か、しのげる場所を探そうよ。  
道化 すべてを揺るがす雷よ、この丸い世界をぺしゃんこにしろ。  
リア 聞け。  
道化 自然の母胎をバリバリと裂き、恩知らずの人間どもを生みだすありとあらゆる種をぶつつぶせ。  
道化 わかったから。  
リア 雷よ、思いきり響き渡れ。  
道化 じいさん、  
リア 火よ、飛び散れ。  
道化 じいさん、  
リア 雨よ、降りしきれ。  
道化 耄碌じじい。  
リア 好きなだけわしを痛めつければいい。こうして立ち、このリア王が餌食  
道化 となろう。  
一人です勝手になつてくれよ。俺やだよ。あー、物置でも何でも、何かな

いかな。

リア おい、道化、よく見ろ。

道化 何を。

リア あたり一面何も無い。まるっきりの荒野だ。こんな場所だとわかっていながら、いやこんな場所だからこそ、あの恩知らずのボケナスどもは屋敷の扉に門をかけ、わしを閉めだした。父親のわしをだぞ。

道化 巻き込まれた俺、最悪だ。

リア これは死ねということだ。嵐でくたばれということだ。王国をくれてやったのに。この身のすべてを委ねたのに。許さん、許さんぞ。死ぬかボケ。覚えてろカス。一生恨み倒してやる。

道化 落ち着きなつて。人を呪わば穴二つ。

リア 落ち着いていられるか。くされファツキンドーターども。

道化 まあ、確かにひどかったけどね。

リア でしょ？ でしょでしょ？ 許しちゃいけないとこでしょ？

道化 「(ゴネリル) お父様は一カ月ごとに、うちと妹の屋敷とを移動してお住まいになる。お父様の従者ではなく、それぞれの屋敷の召使がお世話をするのでは、何が御不満なのでしょう？」

リア 出たな長女ゴネリル、ファツキンドーターその1。ああ、不満だ。大いに不満だ。王はそなたに大そうご不満のみぎりだ。呪ってやる。呪ってやるぞ。おまえの生む子供は全員ウンコになる呪いだ。

道化 「(リーガン) おやめください、お父様。我が屋敷でも同様、大人数の従者を連れてこられても、お部屋も食べ物も十分な用意がございません。ねえ、お父様、私達の召使がお世話いたします。いかがですか。もしそれで行き届かぬ点がございましたら、家主である私どもで対処しますから」

リア 何が対処だ、ファツキンドーターその2、金魚の下痢ファン、リーガン。信じられるものか。おまえにもウンコの呪いをかけてやる。ウンコがウンコを産み、末代までウンコを育てる。ウンコ、ウンコ、貴様の家系図は未来永劫全員ウンコだ。

道化 大人げないって。

リア 大人じゃないもん、リアだもん。リアは王。王は何でも許されるんだもんねー。

道化 もう王じゃないじゃん。

リア 王だもん。この王冠がその証。

道化 いつまで被ってるの。

リア ふん。



道化 にしてもさ、従者ってそんなにこだわるところ？郷に入りては何とやら、せつかくそれぞれの屋敷で世話になるんだからさ、それこそまるっとさ、いーやーだ。わしの従者はわしのことを熟知しておる。わし専用従者だ。他の屋敷の者にしどろもどろに世話されるのなんてごめんだ。

道化 文句ばつか。こりや放り出されるわ。ぜんぶ自業自得だったのに。

リア 今なんつった？

道化 自業自得。

リア はあ？

道化 言わせてもらいますけどね、生前贈与だなんつって王国切り分けて丸腰になったのは、他でもないあんたの選択だからね。そうさせてって言い出したの、あんただからね。それを周りが尊重しただけだからね。

リア はあ。まあ、そうですけど。それが何か？

道化 だから、その結果でしょ、こんなことになっちゃってんの。自業自得でしょ。

リア マルクスって知ってる？

道化 え、だいぶ後の人じゃない？

リア マルクスはさ、価値を得るためには、どんなに怖くても暗闇に向かってジャンプするときが必要だって説くわけ。だからわしもしたわけ、暗闇へジャンプ。

道化 どういうこと？

リア 愛されてるかな、どうか。娘たちは、わしが王国を譲って裸一貫になっても、わしに価値があるって思ってくれるかな。あー、暗闇こっわでも、えいっ。

道化 単にワガママな父親が娘に愛されてるかどうか知りたかっただけですよ。

リア とも言える。

道化 何がマルクスだよ。で、どうだったの。

リア ま、こんなところですよ。

道化 冬の底冷える夜に、嵐の中をさまよう。雨ざーざー、風びゅうびゅう、雷ゴロゴロ、ドン、ぴしゃーん。うう、寒い。

リア 愛されてなかったね。愛されて……愛されて……

道化 じいさん。

リア ぜんぶ嘘だったってことだよ。あの時、あいつらが言った言葉はさ。

道化 「(ゴネリル)お父様を想うこの愛は、とても言葉では言い表せません。ありとあらゆる愛も及ばぬほどに、私はお父様を愛しております」

「(リーガン)私の真心にもお姉さま同様にお父様への愛がこざいます。」

お父様からの愛に浴することのみが、私の幸せに存じます」  
道化 リア 嘘だったね。さつきも屋敷でさ、  
道化 「(ゴネリル) 私が何をしたというのです? 無分別と耄碌が罪と決めつけたものが罪とは限りません」  
道化 リア 「(リーガン) どうかお父様、弱い者は弱い者らしく振舞ってください」  
道化 リア うー。  
道化 生前贈与という麻薬の、使用前、使用后。  
道化 リア ひどくない?  
道化 リア 本音が出たっていうことよ。やつらは王国がもらえれば、それでよかった。  
道化 リア 最悪だ。  
道化 親の顔が見たい。  
道化 リア 泣かないぞ。泣かないもんね。泣くもんか。神々よ、どうかわしに忍耐を、わしに必要な忍耐を与えたまえ。  
道化 ★ (歌う) 雨雨 降れ振れ 母さんが じゃのめでお迎え 嬉しいな  
道化 ピチピチ チャプチャプ ランランラン 「★同時」  
道化 リア ★神々よ、奴らの悪魔のような振る舞いに大人しく耐えるほど、愚かな真似をさせないでくれ。気高い怒りをこの胸に宿してくれ。この頬を涙で汚さないでくれ。ああー。  
道化 リア よしよし、じいさん、よしよし。  
道化 リア ううー。  
道化 かわいそうに。コーデイリアがいればね。  
道化 リア ……。  
道化 コーデイリアが  
道化 リア 誰それ。  
道化 ……あんたの娘の  
道化 リア ……えー  
道化 ……えー  
道化 リア うちの三女は死にました。  
道化 道化 どうなのそれ  
道化 リア うちの三女は死にました。いやそれ以前に生まれてもきませんで  
道化 道化 した。はいこの話おしまい。  
道化 道化 ひどくない?  
道化 リア ひどくない。  
道化 道化 いやひどいって。  
道化 リア ひどくない。さ、小屋を探そう。

道化 あー、やっぱあの性悪姉妹はじいさんの娘だね。これは仕方ない。血だ。  
血は争えないわ。  
リア 血とか関係ないし。  
道化 王である父から従者を奪い丸腰にして嵐の荒野に放り出す娘、と、王女である娘を無一文の丸腰で異国フランスに嫁に出す父。相似、これ相似。  
リア ふーん。  
道化 リアはさ、コーディネートからも愛されてるか心配だったわけ？  
リア 何、リア。呼び捨て？  
道化 いいじゃん、もう。じいさんってほど成熟してないし。  
リア 成熟？ 何、成熟してないとじいさんじゃないわけ。年くってるのにじいさんじゃないわけ。じゃあ何、ばあさん？  
道化 ばあさんにはならんذار。  
リア じゃあ何、姉さん、母さん、父さん、息子？ ばぶばぶあ、赤さん？  
道化 めんどくさ。  
リア 敬意をもって、じいさんと呼べ。  
道化 はいはい。おじいさん。  
リア 「お」をつけるな。年寄りみたいじゃないか。  
道化 年寄りだろうよ。年寄りじゃないじいさんって何なんだよ。  
リア わしが目指すのは「おじいさん」ではない「じいさん」だ。日向の縁側で茶をすすってスズメに餌をやるような生物ではない。  
道化 わかったよ。じいさん。  
リア うむ。  
道化 じいさんはさあ、コーディネリアの愛も試したかったの？ 愛されてる自信がなかったの？  
リア んなわけない。  
道化 そうだよね。一番かわいがってたもんね。  
リア そうだ。  
道化 じゃあ何がしたかったの？ 「おまえたちのうち、誰がわしを最も愛してる？ それに応じて褒美をやるう」なんてどーしよもない設問出して。三人全員から、おしなべて嘘八百の美辞麗句がほしかった？  
リア んなもんいらん。  
道化 じゃあ何？ どうせあれこれ決めてたんだからさ、素直にさっさと王国を三分割するラインの発表すればよかったじゃん。あんな趣味の悪いさ、メンヘラみたいな、  
リア 試験でした。  
道化 は？

リア 国を任せられるかどうかの試験でした。知ってる？ 政治って言葉なんだよ。言葉でヒト・モノ・カネを動かしていく仕事なんだよ。ただ土地をもらっただけで、やったーあとは左うちわ、ってわけにはいかんのだよ。だから、そのための資格試験。

道化 はあ。

リア で、あいつは見事に不合格。以上。

道化 え、そんなことなくない？ 言ってたよ、ちゃんと。あの子なりの言葉で。

リア 認めませーん。

道化 「お父様は私の生みの親。育て、愛してくださいだった親。私はそれに見合うように義務をお返しし、言いつけに従います。お父様を愛し、誰よりも尊敬申し上げます」

ちゃんとしてない？

リア 義務って。従うって。見合うようになって。何だそれ。ダメ。不合格。

道化 わかんない？ あの子なりの正直さ。

リア わかんない。

道化 お父様からたっぷり愛情を注いでもらった分、私も十分お返しします、それが娘としての当然の勤め、至らないかも知れないけど精一杯おつとめします、そういうことですよ。

伝わらん。下手くそめ。言葉を洗って出直してこい。

道化 頑固ジジイめ。

リア 頑固、頑固、頑固っこー。頑固なリア、リアは頑固。

道化 じゃあ何、ゴネリルとリーガンは合格したってこと？

……

道化 だよね？ 王国を二人で分けて相続したもんね？ コーデイリアはダメだったけどこいつらはOKって、あんたが太鼓判押したってことだよ  
ね？

そうだよ。

道化 じゃあ、こうして俺たちが嵐の荒野をさまよってるのも、あんたの太鼓判によるもんだってことよね？

リア わかっています。わかっているますから。ぜんぶ自分のせいだって知ってますから。いいじゃん、もう、ほっといてよ。

道化 長女次女の鼻先に人參ぶらさげて嘘をつかせたのは？

リア。

道化 真実を語った三女の言葉を信じなかったのは？

リア。

道化 老人が嵐の夜を震えながらさまよう、こうなった全ての原因をつくったのは？

リア リア、リア、リア。わかってる、わかってるってば。うるさい。人を呪わば穴二つ。天に吐きつけたツバはマツハの速さで本人を貫く。真実の愛を伝えた三女を侮辱して放り出したあんたは、偽りの愛を述べた二人の娘に侮辱され嵐の中に放り出された。これぞ正に自業自得。

リア 風よ、吹け、

道化 吹け、

リア その頬が割れるまで。吹きまくれ。

道化 吹きまくれ。

リア 豪雨よ、嵐よ、怒濤の水で塔を沈め、

道化 塔を沈め、

リア その頂にある風見鶏を溺れさせろ。

道化 溺れさせろ。

リア ウンコ、ウンコ。

道化 ウンコ、え、何？ 漏らした？

リア ウンコはわし。わしはウンコ、わしこそがウンコ。

道化 何いってんの。

リア ウンコがウンコを生み育て、ウンコの国をつくった。呪われるべきウンコはわし。

道化 ものすごく詰まりそうだな。

リア わしがウンコ。ウンコにした。リア、ウンコ。ウンコ、リア。キング・リア、ウンコ。キング・ウンコ。

道化 反省ワードに聞こえないよ。

リア ごめんなさい。ごめんなさい。こんなわしで、ごめんなさい。

道化 今更謝っても遅いわ。

リア 遅くても言う。ごめんなさい。

道化 コーディリアさん、聞こえてますか？ 聞こえない。あっそう。

リア ごめんなさい。

道化 長女次女は吹き出物みたいな出来だけど、三人目は宝物に育ったね。

リア うー。

道化 かわいそうだったな、あの子。イケメンな求婚者の前でがつつりデイスられてさ。「この欠点だらけの娘、持参金は我が呪いのみ」

リア 周りドン引き。あの子もガクブル。すごかったなあ、あの時。

リア あー。

道化 でもあの子もさ、必死で反論してたよね。

「私は口にするより実行したいと思う者。ご寵愛を失ったのは、顔色ばかりをうかがう目と、きれいごとを言うためによく回る舌を持たなかったゆえ」

あの状況でよく言った。ハートが強い。そこは確かにあなたの子だね。「(フランス王を真似て)美しいコーディリア、貧しくなったあなたは最も豊かだ。棄てられて最もよく選ばれ、嫌われて最も愛される。あなたとあなたの美德をこうして私はつかみましよう」

「(コーディリアを真似て)恐れ入ります、フランス王、あなたのもとへ参ります」

立派な男だ。一番いい子が、一番いい嫁入りをした。

拾う神がまともでよかったよ。

ああ、重い十字架。

自分で背負ったんじゃない。あんたさあ。向いてなかったんじゃない？

え？

王様。

えー。え、そんなことある？

あるでしょ。たまたま何かの流れでなっちゃったんだらうけど。

えー。

それ(王冠)。その王冠。あんた、被りすぎだから。いつまで被ってるの？

え、

被りすぎはよくないよー。

でも、

取りな。もう取っちゃいな。なっちゃいな、人。なんでもない自分にさ。

レッツ人間宣言。

やだ。

どうして。楽だよ。

わしがわしでなくなる。

いやもうないでしょ。

わしはリア王。王なんだって。

いつまで言ってるの。もうあんたが治める王国はないの。あんたが今やってるのは単なる王様ごっこなの。

違う。

長女次女はごっこ遊びに付き合いきれなくて、あんたを荒野に追い出したの。

違う、違う違う違う。

無力な老人。あとは野垂れ死ぬだけ。

リア そんなことない。  
道化 誰もあんたを必要としない。  
リア そんなことない。わしがまた一旗揚げると言えば、  
道化 誰が集まる？ 金も地位も名誉もない、あるのはその王冠のみ。そんなハリボテの王様に、誰がかしづく？  
リア 誰かいる。  
道化 誰かいる？  
リア いるもん。誰かいるもん。王だ。わしは王だ。リア王だ。誰か、誰かおらぬか。王がいるぞ。一人、嵐の荒野を歩いておるぞ。軒下を貸す者はおらぬか。肌を暖める者はおらぬか。びしょ濡れだぞ。息も絶え絶えだぞ。助けてくれ、誰か、誰か。  
道化 じいさん、あんた、王冠と心中する気？ 俺よりよっぽど道化だな。  
リア 風よ、吹け、その頬が割れるまで！ 吹きまくれ！  
リア・道化 豪雨よ、嵐よ、怒濤の水で塔を沈め、その頂にある風見鶏を溺れさせろ！

おしまい。

〔参考資料〕

原作とあわせ、小田島雄志氏、河合祥一郎氏、松岡和子氏の翻訳を参照しました。